

神社祭時記

三月二十四日 元服式。御岳登山鉄道の主催で、奈良時代から続く武家社会の成人の儀式として知られる「元服式」が行われました。今年で三回目、十二歳〜十八歳の男女十名が参加し、武家装束である直垂ひたれに身を包み参列し、元服の祝詞を奏上後、加冠かかんの儀（宮司より刀を授け侍烏帽子さむらゐぼうしを加冠する）を行いました。各々の節目として、若者達の背筋が伸び、引きしまった顔がとても印象的でした。



四月二十九日 第七十三回奉納剣道大会。参加六十チームの中激戦を制したのは、優勝・青梅錬心館、準優勝・東京霞剣友会、三位・立川拘置所・青梅中央道場でした。
五月八日 例祭「日の出祭」。世界の平和・国家安寧・家内安全を祈願し、ケーブル山上駅より神社までの参道を神輿が渡御しました。
六月三十日 夏越しの大祓。半年

の罪穢れを祓い清めました。また、修行体験講座も開催され、綾広の滝での禊行や、奥の院・上高山までの山駆けを行いました。この講座は六月〜九月に計三回開催されます。

七月八月、猛暑長梅雨と天候に悩ませられましたが、御岳山商店組合主催のレンジョウマ祭においては、当社に伝わる太々神楽の舞や昆虫観察会、忍者イベントなど多くの催しが開催されました。花の妖精レンジョウマが咲く中、多くの登山者が足を運びました。

七月一日 稲荷社遷座祭。腐朽著しい社の修復工事が七月中旬から始まり十一月には終了の予定です。

九月に入り虫の女王カンタンの声が山に優しく響き渡ると、風も涼しくなり秋の到来を感じさせます。今年も元ぐんま昆虫の森園長矢島稔先生をお招きして、「カンタンを聞く会」を開催致しました。
九月二十九日 流鏝馬祭。夕闇の中神事の後、撒かれた木片を持帰る氏子達。無病息災を祈念ながら、その木片に焼き魚を乗せて食しました。

せんそ 踐祚改元奉告祭

記念植樹

お印：梓（アズサ）

五月一日、皇太子殿下には踐祚あらせられ、御譲位により「令和」に元号が改められました。これに合わせ午前十一時「踐祚改元奉告祭」を執行致しました。新帝徳仁陛下が皇位を継承され、改元されたことを神前に奉告しました。祭典終了後、徳仁陛下御即位記念として、お印の「梓（アズサ）」を幣殿横の境内地に植樹致しました。



御岳山の行事

| | |
|--------|----------------------|
| 平成三十一年 | 一月 一日 元旦祭 |
| | 三日 太占祭 |
| | 大口真神社祭 |
| 二月 | 三日 節分祭 |
| | 初午 稲荷社祭 |
| 三月 | 八日 春季大祭（祈年祭） |
| | 二十二日 奉納俳句奉告祭 |
| 四月 | 下旬 産安社祭 |
| | 二十九日 奉納剣道大会・介山祭 |
| 令和元年 | |
| 五月 | 七日 日の出祭（宵宮） |
| | 八日 日の出祭（神輿渡御） |
| | 十五日 男具那社祭 |
| | 大口真神社祭 |
| 六月 | 十六日 神楽と雅楽の一般公開 |
| | 二十三日 修行体験講座（二泊） |
| | 三十日 夏越大祓 |
| 七月 | 十三日 レンジョウマまつり（九月十四日） |
| | 十三日 新神楽 |
| | 十五日 流竹体験講座 |
| 九月 | 七日 カンタンを聴く会 |
| | 十四日 新神楽 |
| | 二十九日 大口真神社祭 |
| | 流鏝馬祭 |
| 十月 | 二十八日 一日修行体験講座 |
| | 神楽と雅楽の一般公開 |
| | 十九日 天空もみじまつり |
| 十一月 | 二十四日（十一月二十三日） |
| | 八日 秋季大祭（新嘗祭） |
| | 二十三日 末社祭 |
| 十二月 | 八日 みたけ山トレイルラン |
| | 二十三日 天長祭 |
| | 三十一日 大祓 |
| 六月〜十一月 | 第四日曜日 夜神楽 |
| 毎月 | 八日 月次祭 |
| 毎日 | 日供祭 |

大都会。東京の、大自然。御岳山に想う

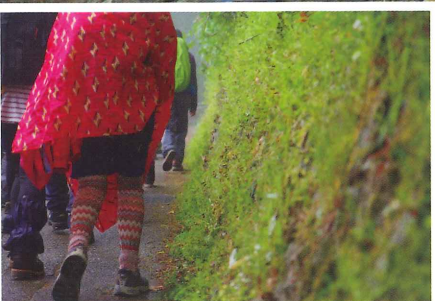


なんとも見事に苔生したロックガーデンには、ヤマメがたくさん泳いでいる。パーマークと呼ばれる美しい斑紋模様を持つ、冷たい水に棲む魚だ。ぼくはたいがい、この渓谷を歩くとヤマメ探しに夢中になってしまふ。まさか東京でヤマメ探しとは——いや、東京にこれだけヤマメがいるなんて——都会に憧れて上京したあの当時からすると、まったく思いもよらなかった未来を、ぼくはいま御岳山で楽しませてもらっている。

宮城で育ち、釣りばかりする少年期を過ごした。溪流にはじまり、湖沼、海にもよく通った。山形との県境を源流にする小さな沢にお気に入りがあり、よく溪

に分けいったものだった。あの頃に覚えた沢歩きは、山旅をしながら文筆業を営むぼくの忘れ難い原体験となっている。

小さな沢を気ままに泳ぐヤマメは、底に沈む石の模様や水紋にとけこんで、なかなか視認することができない。警戒心が強く、発見するにはちよつとした根気と目の慣れが必要となる。ハイカーたちはロックガーデンに案内する度、ぼくはヤマメの話をしながらか「ほら、あそこ！」と指をさす。特にこどもたちは夢中になつて魚を探し、それと認めると誇らしげに「見えた！」と快哉を叫ぶのだ。歓喜の雄たけび、といえば、令和になつて間もない御岳山で珍しいものを見かけ



おうち せい 大内 征
低山トラベラー
／山旅文筆家

土地の歴史や物語を通じて各地の低山を歩き、自然の営み・人の営みに触れながら日本のローカルの面白さを探究。ピークハントだけではない、「知的好奇心をくすぐる山旅」の楽しみ方と、歩いた山里の魅力について、文章と写真と小話で伝えている。
NHKラジオ深夜便「旅の達人〜低い山を目指せ〜」出演中。著書に『低山トラベル』シリーズ（二見書房）、『低山手帖』（日東書院本社）など。NPO法人日本トレッキング協会理事。宮城県出身。